

教育機器の導入は近年著しく、特にスライド映写機、OHP、テレビ受像機、カセット式録音機などは、ほとんどの学校で所有している。

その利用状況を見ると、教科の特質及び内容にもよるが、社会、理科、英語などに多く利用されている。また、ほぼ年間授業時数の40%の時間において教育機器を用いている(「義務教育課調査」(昭51))。その種類についてみると、OHP、スライド映写機、VTR、カセット式録音機等が多く使用されている。なかでもOHPの利用度はかなり高い(表2-3-20)。

効果発揮するまでにはいたっていないので、実践的研究が強く望まれるところである。

表2-3-20 教育機器の利用状況

(単位：%)

教科	ラ ジ オ	テ レ ビ	16 % 映 画	8 % 映 画	ア ナ ライ ザ ー	カ 録 セ ッ 音 ト 式 機	VTR	ス 映 ラ 写 イ ド 機	シ 磁 気 録 音 機	OHP	L L
国 語	6.6	—	—	—	—	77.8	—	6.6	2.2	57.8	—
社 会	2.2	13.3	8.8	8.8	6.6	11.1	11.1	64.4	—	88.8	—
数 学	—	—	2.2	2.2	6.6	—	2.2	4.4	11.1	86.7	—
理 科	—	11.1	26.7	—	4.4	6.6	15.6	46.7	2.2	88.8	—
音 楽	4.4	—	—	—	—	55.6	2.2	13.3	—	42.2	—
美 術	—	2.2	—	—	—	—	4.4	53.3	—	57.8	—
技・家	6.6	4.4	—	—	—	2.2	4.4	28.9	2.2	66.6	—
保 体	—	2.2	2.2	6.6	—	24.4	2.2	22.2	—	40.0	—
英 語	8.8	4.4	—	—	8.8	91.1	6.6	—	11.1	64.4	6.6
道 徳	4.4	2.2	8.8	2.2	2.2	66.6	4.4	48.9	2.2	48.9	—
特 活	2.2	4.4	13.3	4.4	2.2	28.9	11.1	22.2	2.2	44.4	—

注：1.「義務教育課調査」(昭51)による。

2. 利用割合=(教科別機器別利用学校数)÷(調査全学校数)×100

これらの調査から教育機器の利用は盛んであると推定できるが、指導訪問や研究会における発表等からみる限りにおいては、それぞれの教育機器の特性を十分に生かして効果発揮するまでにはいたっていないので、実践的研究が強く望まれるところである。

従って、今後は、授業を一層充実し、生徒に基礎的・基本的な知識や自ら考える力を養うため、指導内容、方法、教育機器の効果的な活用等についての研究を進めるとともに、このための教員の研修会や講習会の充実に努める必要がある。

(4) 学 習 の 評 価

学習の評価の現状について、指導訪問や研究会などを通してみると、評価が指導計画、指導法の改善のためにフィードバックされるというよりは、生徒を評定し、進路の選択に利用することに重点がかけられている傾向がみられる。また、評価の対象としては、教科によって違いはあるが、知的な面の評価に偏りがちであり、その機会は、単元の終了時あるいは中間テスト、学期末テストが主となっていることが多い。

学習の過程における評価については指導計画や指導(週・日)案等では一応評価の観点、方法